

地域とともに進める防災教育

つるぎ町立 半田小学校

1 はじめに

本校は、児童数188名、学級数9学級、PTA戸数134戸、職員数は18名である。国道192号線から約1キロ南に入り、四方を山に囲まれた盆地の中にある。校区の中央を半田川が流れ、校区を両岸に沿って東西に細長く分けている。半田川の支流は土石流危険渓流が多く、平成16年・17年の台風では大きな被害を受けた。校区のほとんどが、急傾斜地危険箇所や地すべり危険箇所に指定され、気象状況によっては、山崩れやがけ崩れ、土石流などが発生しやすい土地である。

平成19年度防災教育モデル推進校の指定を受け、

- ・全校児童が系統的に取り組み防災学習を推進する。
- ・自分で判断し、自分たちで助け合って避難できる力の育成を図る。
- ・保護者や地域の人々とともに防災学習を展開する。

という課題をもって取り組んだ。

2 事業実施計画

校内で進める防災学習

県西部総合県民局の協力により進める学習（若い世代の防災サポーター育成事業）

実施月	校内で進める学習	西部総合県民局の協力により進める学習
4月	・児童・職員・保護者への事業内容の周知 ・各学年の取り組み検討	
5月	・全校防災学習（1～6年） ・防災センター見学（3・4年）	
6月	・防災学習授業参観（全学級） ・AED講習会（保護者） ・防災アンケート（保護者） ・授業研究会（4年）	・防災サポーター育成講座 （5・6年） 「地震や土砂災害に備えて」
7月	・避難訓練（火災・全校） ・バケツリレー体験学習（全校） ・保護者への啓発（広報紙）	・半田中学生出前授業 （5・6年、中3） 「半田中学の取り組み発表」 「防災カルタ取り」
8月	・地域防災訓練（保護者も参加） ・非常食試食（児童・保護者）	・寄合防災講座（保護者）
9月	・幼・小・中合同避難訓練（地震）	
10月	・土砂災害について（5・6年）	・図上訓練（6年・中2）
11月	・校内の危険箇所調べ（保健委員会）	・防災実地訓練 （つるぎ町内6年・中学生・協力者）
12月	・非常食、やこめ作り（5年） ・幼・小・中合同避難訓練（火災） 粉末消火器による消火体験 ・避難所案内板づくり（6年） ・防災センター見学（6年） ・保護者への啓発（広報紙）	
1月	・各地域避難所案内板づくり・案内板設置 （6年） ・防災頭巾づくり（6年）	
2月		
3月	・まとめ	・手引書発行

3 本年度の取り組み

(1) 全校児童による防災学習

実施日 平成19年5月14日(月)

指導者 徳島大学環境防災研究センター黒崎先生

学習内容

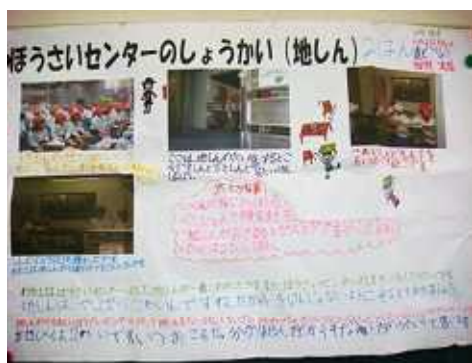
- ・地震による被害の映像を見て、被害の大きさを
知る。
- ・砂災害の映像を見て、災害の怖さを知る。
- ・防災クイズ
- ・エコノミクスー症候群予防のグッパー体操



(2) 防災センターでの体験学習

平成19年5月30日(水)、3・4年生が遠足で県立防災センターを訪問し、消火・地震・風・煙体験などを行った。これらの体験が、3年生では、総合的な学習「見学したことをつたえよう」の学習に発展し、模造紙にまとめたことを2年生や保護者、交流学习で訪問した重清西小学校の3年生に伝えた。

4年生は、総合的な学習「セイフティー半田」～今の私たちができること～の学習へと広がり、ゲストティーチャーを招いて地元で起きた災害の話の聞いたり、災害から命を守る方法を調べ防災に対する意識を高めた。



(3) 防災学習授業参観

平成19年6月22日(金)に実施した授業参観日に、全クラスが防災学習を行った。本年度の取り組みについて理解や協力を得たり、保護者の意識を高めたりすることをねらい実施した。



4年生の学習の様子



2年生の学習の様子

(4) 防災アンケートの実施

保護者の防災に対する意識を知り、今後の活動の参考にするために行った。

その結果、将来地震が発生すると考えている保護者は約8割もいたが、家族間で話し合ったり、非常持ち出し品の準備をしている家庭は少なかった。しかし、近所

や地域の人たちと声を掛け合ったりする必要があると感じたり、避難場所の把握や避難経路の確認をしておく必要があると感じていることが分かった。

(5) バケツリレー体験学習

- ねらい 全校児童が非常事態に際し、自分たちにできることの一つとしてバケツリレー体験を行う。
- 実施日 平成19年7月5日(木) 10:00~10:30
- 準備物 バケツ20個、水入れタンク、ストップウォッチ
- 実施法 バケツに水(バケツ半分約3リットル)をくみ、プールから児童玄関前のタンクまでリレーをしてためる。

約200人が25分間バケツリレーをしたが、運べた水は200リットルぐらいであった。この体験学習を通して、たくさんの水を運ぶということは大変な労力と大勢の人の力が必要なが分かった。また、消火活動だけでなく災害時の生活用水や飲料水運びに役立てることができるということも分かった。



(6) 地域防災訓練

- 目標
- ・自分の住んでいる地域の避難所を知り、地域の危険な所の確認をする。
 - ・自分で判断し、自分たちで助け合って避難できる力の育成を図る。
 - ・保護者や地域の人々と共に、防災学習を展開する。

実施日 平成19年8月5日(日) 全校登校日

実施内容・時間

8:00

- ・非常用品を持ち、地域の避難所へ集合する。(徒歩)
- ・家から避難所までの安全なルートを確認する。

8:00~9:30

- ・持ってきた非常用品を確認し、記録する。
- ・地域の危険箇所や防災施設について話し合い、地図に表す。
- ・危険箇所の写真を写す。(学校への登校途中を含む)
- ・学校(体育館)へ移動する。(徒歩または車)

10:00~

- ・地域ごとに整列し、地域の危険箇所や持ち出し品について発表する。

10:30~11:15

- ・防災学習(保護者)アンケート記入
- ・夏休みの生活指導、宿題確認(児童)アンケート記入

11:30~12:10

- ・非常食の試食(児童・・教室)(保護者・・体育館)

12:15~

- ・解散

準備物

使い捨てカメラ20個、模造紙、油性ペン、色鉛筆、シール(赤・青・黄)
水筒(児童)、非常食(350食)

その他

- ・地域担当教員は、地域学習に参加する。
- ・地域の避難場所から学校までは徒歩。(やむえない地域は車でもよい)
- ・保護者の参加については、参加の有無を調べる。



地域での学習の様子



避難所から学校へ



非常食の試食



非常食の試食(保護者)

防災学習をして児童の感想

- ・いえからがっこうまできたとき、じゅうたくのがけがこわかった。
- ・田井西子ども会では、地図を見たらきけんなところが多かったです。
- ・あぶない場所やきけんな場所がどこにあるか分かりました。ブロックべいがある所や山の近くや水のある所はきけんだということが分かりました。生命のパンはオレンジの味がしました。あまくてふわふわしてやわらかかったです。
- ・地域のきけんな所やこわそうな所を知りました。災害は急に起きるのでゆだんはきんもつです。非常食は缶パンやおもちでした。非常持ち出し品は、人それぞれいっぱいあって想像もつかない物を持ってきている人がいました。今日の学習をしてよかったなあと思いました。
- ・私は食べたことのない非常食を食べられてよかったです。昨日は防災学習のためにリュックサックに入れたけど、今日からは災害にむけてリュックサックに入れておこうと思いました。
- ・老人いこいの家で危険な場所などを地図に表してみたら、こんなに危険な所があることが分かりました。学校に向かって歩いている時も、危険な場所はいっぱいあるんだなと思いました。

保護者の感想

- ・集合場所まで、国道192号、右側は山、左側は川を挟んでいるので危険です。自宅周辺で安全な場所を子どもや近所の人で相談する必要があると思いました

非常食が思ったよりおいしかったです。いつ何が起こってもあわてず準備をしておきたいと思います。

- ・ 普段あまり防災について考えなかったのが、子どもたちといっしょに地域のことが分かり大変よかったです。また非常食もおいしかったです。我が家にも是非買ってみたいと思います。
- ・ 非常持ち出し品については、他の人が持ってきている物を見て、色々必要な物がたくさんあるなあと思いました。
- ・ 避難所から学校へ移動する時、危険な場所がたくさんあることが分かりました。家に帰って子どもとよく話し合いたいと思いました。非常食も意外におなかいっぱいになりました。缶詰のパンなど購入しておきたいと思いました。今日の訓練に参加してたくさんのお話を学びました。

暑い時の体験学習であったが、この学習を計画して児童も保護者も多くのことを学ぶことができたと思う。非常持ち出し品の準備をしていない家庭も多かったが、この体験を機会に準備することができた。また、普段気づかなかった地域内の危険な所も保護者といっしょに歩き気づくことができた。

「昨日は防災学習のためにリュックサックに入れたけど、今日からは災害にむけてリュックサックに入れておこうと思いました。」という児童のことばに防災意識の高まりを感じた。

(7) 幼・小・中合同避難訓練(地震を想定した訓練)

平成19年9月11日(火)午前9時45分から午前10時15分までの間、教職員が適切な避難誘導をし、幼児・児童・生徒が、混乱を生ずることなく、安全に避難できることをねらい実施した。

同じ敷地内にある幼稚園、小学校、中学校が協力して訓練を実施したのは今回が初めての試みであった。児童、生徒が運動場に避難した後、園庭から誘導されてくる幼稚園児を、中学3年生が運動場(野球練習場ベンチ前)で待ち受け、一人ずつ手をつないで自分たちの学年待機場所まで誘導した。

合同避難訓練の反省(教職員)

- ・ 指示や指導の成果で早めに避難できた。互いに助け合うということで、幼・小・中の交流の場を常に持つことが大切であると思った。
- ・ 頭を保護せずに避難してくる児童がたくさんいた。保護していてもドリルのような小さくて薄い物を使用していた。いざという時のために、座布団などを手近においておくとういと思った。
- ・ 幼稚園や小学校は救急用品や避難グッズを持っていた。職員室に常備しておくことも必要であると思った。



運動場に避難してきた様子

(11) 各地域避難所案内板づくり(6年)

町から配布された防災マップには各地域の避難場所を記載しているが、地域には避難所を示す案内板はどこにもない。そこで、各地域の避難所の案内板を作る計画をした。

材料 コンパネ40センチ×52センチ、ペンキ、筆

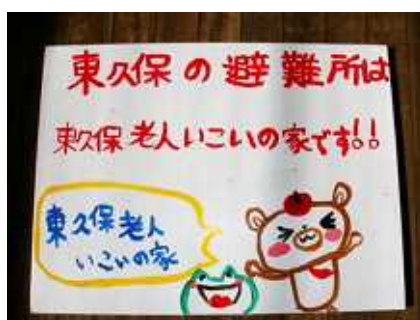
設置する場所 各地域の人目につきやすい所

製作枚数 17枚

製作者 6年児童39名

児童の感想

- ・地域の人たちの中に避難場所を知らない人がいるかもしれないので、役立ててほしい。
- ・みんなに目立つように色の使い方を工夫した。また、持ち出し品として懐中電灯や水や非常食も描いてみんなに知らせた。
- ・看板には道に迷っている亀をかいたが、みんなには迷わないで避難所まで行ってもらいたいと願い作った。



(12) 防災頭巾づくり(6年)

9月の避難訓練の反省から、家庭科の時間にバスタオルを利用した防災頭巾づくりを行った。

材料 バスタオル1枚、平ゴム25センチぐらい(20センチと5センチに切り分ける)、キルティング用綿50センチ×25センチ1枚

作り方

ア バスタオルを広げ中心にむかって半折りにし、一方に綿を入れる。

イ 2つに折りたたみ4方を縫う。

ウ たて半分に折りたたみ、片方をかがる。

エ あごの位置と椅子に取り付けられるようにゴムをつける。

児童の感想

- ・周りを縫ったり平ゴムをつけたりするのは大変だったけれど、けっこううまく縫えたと思う。地震の時はかぶって頭を守るし、ふだんは座布団になるからすごく便利だと思う。
- ・自分の名前をししゅうするのがとてもむずかしかったけれどがんばって縫った。この頭巾は災害が起きたときに活用したい。



(13) 防災実地訓練

日 時 平成19年11月11日(日) 9:00~15:00
 場 所 つるぎ町スポーツセンター
 対 象 6年生、中学生
 班の数 14班
 準備物 水筒・上靴(児童)、油性ペン(学校)
 服 装 体操服上下
 学習内容

プログラム	学 習 内 容	協 力 者
1(60分)	避難体験(煙体験) 傷病者、介助役に分かれ避難誘導訓練	美馬西部消防組合 地元消防団 町社会福祉協議会
2(60分)	応急手当訓練 搬送訓練(けが人の運び方と簡易担架作成)	美馬西部消防組合
3(90分)	炊き出し訓練(にゅうめん・ごはん・漬物)	生活改善グループ
(30分)	ミニ講演(県知事) ・ 質疑応答	飯泉徳島県知事
4(50分)	災害時の心構えワークショップ 「地震が起きた時気をつけたいこと」 「地震が起きる前に何をしたらよいか」 ・ 発表 ・ 質疑応答	県西部総合県民局 徳島大学環境防災センター



避難誘導体験



簡易担架の作製



炊き出し訓練



災害時の心構えワークショップ

3 成果と今後の課題

- (1) 児童も職員も地域の自然災害や南海地震に対してあまり関心がなかったが、学習を進めていくうちに自分たちの問題ということに気づき、意識が高まってきた。
- (2) 体験を通して、身の守り方や地震の時どのようにしたらいいのか考えるようになった。また、避難場所を確認したり、防災頭巾を作製したりすることで生活と密着した学習ができた。
- (3) 防災グッズを準備したり、避難経路を歩いたりしたことで、災害の時の対応の仕方について身につけることができた。
- (4) 地域の子どもが共に学ぶ場を持ったことで、地域での防災活動の大切さを知ることができた。
- (5) 全校児童が発達段階に応じて系統的に取り組める学習内容を考え、学習したことをどのように定着させていくのか考えていく必要がある。
- (6) 防災教育は、家庭や地域へ啓発をし協力して取り組むことが必要である。